



夏の函館公園

(長峰 詠子氏・昭和58年卒)

# 夕陽

函館市支部会報

発行所  
夕陽会 函館市支部  
函館市立潮見中学校  
印刷 (株)島本印刷



## 同窓への想い

夕陽会函館市支部 副支部長 碓

幸信  
(昭和四十九年卒)

同窓という言葉にどんな想いを感じるだろう。辞書を引く。「同じ学校または同じ先生に学んだこと」と単純明快に記されている。この十七文字がまさに同窓のスタートラインである。夕陽会でいえば該当する方々が約二十万人にも及ぶ。大正七年三月、函館師範学校第一回卒業生六十八名からの歩みであり、脈々とつながる歴史と伝統の重みを感じる。

果たして『同窓』という言葉に対するそれぞれの想いは？

言うまでもない。千差万別。大学での生活であり、恩師との出会いであり、卒業後の環境であり、一人一人の様々な体験・経験が各々の想いを形づくる。

私事で申し訳ないが、三十数年前、初任地、日高門別での話である。海岸線より二十キロ山に入った三学級四定員の複式の学校。自校や近隣の校長先生、先輩教諭から声がかかる。切っ掛けは夕陽の同窓であること。大学の様子、教授の話、寮の話・・・先輩諸氏の語りには母校への熱い想いと郷愁を感じさせるに十分だった。学校と住宅だけの山奥での一人暮らし。すぐに催してくれた古びた焼肉屋での歓迎会。二、三十キロを走り集まっていただいた町内の頼もしい先輩の笑顔とホルモンの味が、私の記憶から消えることはない。物心両面の支援・苦言の数々。同窓生であるという関わりのみ

で受けた恩恵は、あまりに大き過ぎた。私の同窓への想いはそこで誕生した。

その想いは個々に濃淡があり、連想されるイメージも当然異なる。

昨年起きたひとつの事件が脳裏に浮かぶ。若く未来ある尊い命が奪われた。事件そのものが驚愕の出来事であり、重ねて、被害者・加害者とともに同窓であることに計り知れない衝撃を受けた。多くの、いや、すべての友が少なからず動揺を覚えたに違いない。そこに同窓が故の悲しみを共有する想いが存在する。まさに、負の遺産で一体感を味わうようなことは二度とあつてはならない。しかし、我々の想いが、ある一定の共通空間に漂っていたのは事実のような気がする。

先日、学習指導要領等についての答申が出された。改正教育基本法等を基軸とする基本的な考え方が示された。今後、準備・移行期間を経て本格実施となる。今こそ最大の変革期。同窓の友の多忙な日々が目に見え、

昨年三月、力量不足の私が副支部長という任を受けることとなり、その重責に戸惑いを感じております。しかし、新たな『同窓』への視点を与えて頂いたものと解し、微力ではありますが、函館市支部の発展のため最大限の努力を傾けたいと存じます。皆様のご指導・ご支援を賜りますよう宜しくお願い致します。

◎ 訃 報

ご冥福をお祈りいたします

- ・成田 憲夫氏 昭19年卒 平19年4月(逝去)
- ・三上 英一氏 昭5年卒 4月(逝去)
- ・池田 典氏 昭24年卒 4月(逝去)
- ・城近 義夫氏 昭19年卒 4月(逝去)
- ・細井 常道氏 昭27年卒 5月(逝去)
- ・高井 信行氏 昭30年卒 5月(逝去)
- ・角田 治義氏 昭20年卒 6月(逝去)
- ・吉田 正巳氏 昭25年卒 11月(逝去)
- ・長田 雄太郎氏 昭22年卒 11月(逝去)
- ・和田 則安氏 昭40年卒 11月(逝去)
- ・上田 嘉一氏 昭5年卒 12月(逝去)
- ・氏家 一人氏 昭60年卒 平20年1月(逝去)
- ・岡田 準介氏 昭23年卒 2月(逝去)
- ・瀬川 直光氏 昭19年卒 2月(逝去)

函館市支部前納会員(順不同)

平成十八年度

- ・谷村 誠氏 (昭44年卒)
- ・堀川 憲子氏 (昭44年卒)
- ・伊藤 皓嗣氏 (昭44年卒)
- ・小岩 眞智子氏 (昭44年卒)
- ・中山 雅雄氏 (昭44年卒)
- ・西谷 弘氏 (昭44年卒)
- ・西谷 文弘氏 (昭44年卒)
- ・大原 哲弘氏 (昭44年卒)
- ・森武 一幸氏 (昭44年卒)
- ・沼崎 孝男氏 (昭44年卒)
- ・花田 憲一氏 (昭44年卒)
- ・相馬 まり子氏 (昭44年卒)
- ・佐々木 まき氏 (昭46年卒)
- ・大泉 亮子氏 (昭50年卒)
- ・安保 勝順氏 (昭44年卒)
- ・中村 紀久雄氏 (昭44年卒)
- ・松森 洋二氏 (昭44年卒)
- ・豊岡 栄子氏 (昭44年卒)
- ・中島 隆男氏 (昭45年卒)
- ・成田 恭子氏 (昭29年卒)
- ・澤田 稔氏 (昭45年卒)
- ・本間 淳一氏 (昭46年卒)

平成十九年度  
夕陽会函館市支部  
会務報告  
夕陽会函館市支部事務局

平成19年 4月

- 14日(土) 支部総会
- ・幹事会、新会員・幹事懇親会 案内状発送
- 16日(月) 支部引継ぎ
- 23日(月) 発送
- 27日(金) 第3回本部役員会に支部長、幹事長出席
- 5月9日(木) 支部役員会
- ・支部会報発行計画
- ・事務局会議
- 11日(金) 本部総会・大懇親会案内及び会費納入案内
- 12日(土) 夕陽会渡島支部大懇親会・新会員歓迎会に支部長が出席 (法華クラブ)
- 23日(木) 函館市支部幹事会及び新会員・幹事懇親会(ホテル函館ロイヤル)
- 31日(木) 第4回本部役員会・顧問・参与会に支部長、幹事長出席
- ・会費徴収
- ・大懇親会と推進業務(しおり作成、ホテルとの打合せ)
- 16日(土) 大懇親会運営・夕陽会全国支部長会議に支部長、幹事長出席
- ・夕陽会総会に支部長出席
- ・支部会報発行計画・事務局会議
- 7月
- 14日(土) 夕陽会書道展祝賀会に幹事長出席
- 18日(木) 第5回夕陽会本部役員会に支部長、幹事長出席
- 20日(金) 支部会報192号発行
- 31日(火) 支部役員会

平成20年 8月2日(木)

- ・管理職採用・昇任者に寄付依頼
- 4日(土) 夕陽会全国支部幹事長会議に幹事長出席
- 25日(土) 鶴陵会懇親会に支部長出席
- 9月20日(木) 支部会報72号発行
- 21日(金) 第6回夕陽会本部役員会・事務局会議へ支部長、幹事長出席
- 22日(土) 夕陽記念館見学に支部長、幹事長出席
- 10月
- 10月
- ・支部会報発行計画
- ・祝賀会・会員懇親会運営計画
- 11月
- 8日(木) 第7回夕陽会本部役員会に支部長、幹事長出席
- 12月13日(木) 会員へ祝賀会・会員懇親会案内発送
- 17日(月) 顧問会議案内発送
- 25日(火) 支部会報193号移送
- 平成20年
- 1月7日(月) 受賞者、来賓へ祝賀会・会員懇親会案内発送
- 8日(火) 五稜支会、養護支会へ祝賀会・会員懇親会案内発送
- 10日(木) 支部役員会
- ・祝賀会・会員懇親会参加者取りまとめ、しおり作成
- 2月
- 8日(金) 顧問会議
- 9日(土) 夕陽会渡島支部勇退者激励感謝の会に支部長出席
- 22日(金) 支部祝賀会・会員懇親会
- ・20年度会員名簿作成依頼
- 3月
- 6日(木) 支部会報73号発行
- ・栄進者への祝意
- ・支部役員会、会計監査
- ・事務局会議
- ・本部会報194号移送
- ※90周年記念大懇親会準備作業

〔平成二十年度 予告〕

◎ 函館市支部総会

日 時 四月十二日(土)

会 場 市民会館 大会議室

① 学校幹事は必ず出席してください。

② 学校幹事の他に以下の会員数の出席を加えて報告してください。

◇ 会員数九名以下の学校は、幹事その他に一名以上

◇ 会員数十名以上の学校は、幹事その他に二名以上

◎ 夕陽会本部総会・大懇親会

期 日 六月二十一日(土)

会 場 国際ホテル

記念式典 午後二時

本部総会 午後三時三十分

祝賀会 午後五時三十分

事務局だより

支部会報第七十三号をお届けいたします。本会報の発行に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。

前納会員制度のご案内を、三月でご退職される会員の皆様差し上げさせていただきます。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。

(夕陽会函館市支部幹事長 中谷 満)

題字/あさひ小学校 大塚信夫氏(昭和50年卒)

函館市立白尻中学校



本校は、昭和二十六年大船中学校を併合し、白尻村立白尻中学校として開校しました。

昭和五十二年に新校舎落成、開校三十周年記念式典が挙行され、平成十三年には開校五十周年記念式典が挙行されました。

校区は東西十六キロメートルの広範囲におよび、校下には白尻小学校・大船小学校の二校があります。通学範囲が広いため生徒のほとんどが冬期間以外は、自転車通学をしています。保護者のほとんどは漁業従事者であり、昆布採集を家業としている家庭が多くを占めています。生徒は、朝早くから昆布干し等の手伝いをしてから登校する日々が夏から秋にかけて続きます。

自然環境や歴史的文化に恵まれ、地域の教育資源の活用や交流活動を通して、生徒は、地域社会に対する誇りや愛着心、豊かな感性が育っています。

現在、三学級、七十名が在籍しており校訓「和気・独立・進取」のもと

「心豊かに生き生きと活動する生徒の育成」を重点目標として教職員が一体となり教育実践に励み、今年度は二年間の研究指定校を受けた道徳の公開授業を行いました。また、壁新聞コンクールでは地域に根ざした記事を取材し、連続して最優秀賞を受賞することができました。

生徒会活動も活発で、リングブル回収を行い老人ホームに車イスを贈ったり、エコキャップ活動などの取り組みを積極的に行っています。

部活動は、サッカー・バドミントン・ハンドボール・吹奏楽があり、その他にボランテニア同好会があります。少人数ではありますが意欲的に活動し成果を上げています。

学校職員は、校長、教頭、教諭、養護教諭、事務職員、用務員の十三名で構成されています。

三十代から四十代の中堅層の教員の割合が多く、そのまわりをフットワークのよい若い教員と豊かな経験を持ったベテラン教員が固めています。

学年団にとらわれず、生徒の情熱が常に行き交っている風通しのよい職員室で教師間に共通理解を深め、小規模校ならではの個に応じたきめ細かい指導を実践しています。

私大出身者が多く、夕陽会のメンバーは以下の四名とかなりの少人数ですが、これからも、夕陽会の絆を大切に、夕陽会のみならずの発展に微力ながら力をつくしていきたいと考えております。

- 〈校長〉 田中 寛 (昭和四十七年卒)
- 〈教頭〉 三浦佐和子 (昭和五十九年卒)
- 〈教諭〉 荒木田 忍 (平成七年卒)
- 〈養教〉 小柳 未来 (平成八年卒)

受賞祝賀会・会員懇親会





今の私、  
そして教職の皆さんへ

夕陽会函館市支部 顧問 小山内 武弘  
(昭和四十二年卒)

教職を退いて三年。現在、市の福祉に  
関係する家庭児童相談員を仰せつかつて  
います。充実した日を過ごせるのは大変  
ありがたく、また感謝の気持ちでいつば  
いです。

ただ、一方では、この多様化する社会  
のひずみが投影された複雑な心境に陥  
つてしまうのも現実です。

その一つが「児童虐待」の問題です。  
子どもに対する虐待はどの時代、どの  
文化にも存在しました。我が国にあって  
も、「間引き」という嬰兒殺し、人身売  
買や捨て子などが行われたのは事実で  
す。しかし、どの時代どの文化とは言っ  
ても、その虐待の状況や社会背景は異な  
っていたと思われまます。かつては、社会  
そのものが貧しく、また子どもの人権を  
認めずに行われたという意味で、「社会  
病理としての虐待」とするところがあ  
ります。

これに対して、社会が子どもの権利を  
認めるようになった現在は、親の精神病  
理から発していたり、あるいは家族全体  
の病理として行われてしまうという特徴  
があるのです。従って、これを「精神病  
理としての虐待」「家族病理としての虐  
待」ととらえることができます。

函館市の場合、私どもに寄せられる通  
報の多くが、いわゆる「ネグレクト」と  
なっています。これは、親の愛情遮断に  
よる養育放棄だけとは限りません。曲が

りなりにも親子間の愛着関係は感じられ  
るものの、親が子育ての知識やスキルに  
著しく欠けるために生じる重いケースが  
含まれます。また、その中には、親自身  
の生育歴そのものに要因が認められるこ  
とも決して少なくはありません。悲しい  
負の連鎖と言わねばなりません。

このようなことから、ケースの改善に  
向け、関係機関と連携して取り組むわけ  
ですが、特に、幼保・小中学校にも度々お  
世話になっています。お互いの足らざる  
を補い合う姿勢。即ち、目の前の子ども  
の状態は把握できても、家庭状況の把握  
には限界のある園や学校。そして、その  
逆の立場にある福祉行政。両者の仲立ち  
をするのも、現在の私の大切な職務の一  
つとなっています。

教職にあって、生徒指導で人並みに汗  
をかいた積もりではないでも、教育機関で  
あるがゆえの越えられないハードルがあ  
りました。家庭に介入するまでの力は与  
えられていませんでした。それだけに、  
今改めて、関係する人々の連携の大切さ  
を一層実感しています。現在の立場で言  
えば、「児童の福祉のために」です。

「教育とは、本来的に明るい営みであ  
る」。これは、さる夕陽の大先輩の至言  
です。奮闘しておられる現職の皆さんに、  
これをそのままお伝えして、ささやかで  
はありますが、心からなるエールを送ら  
せてください。(当市の相談員は、同期の佐藤  
光豊氏と一緒に務めさせていただいておりました。)

受賞者ご芳名一覧(敬称略・順不同)

- 秋の叙勲 瑞宝双光章 津坂 忠 (昭和28年卒)
- 秋の叙勲 瑞宝双光章 田中 俊也 (昭和29年卒)
- 春の叙勲 瑞宝双光章 阿部 義行 (昭和34年卒)
- 中学校教育60年記念教育功労者表彰 札内 征男 (昭和37年卒)
- 中学校教育60年記念教育功労者表彰 橋田 恭一 (昭和39年卒)
- 北海道教育功績者表彰 武田 隆雄 (昭和46年卒)

函館市立学校教職員表彰

- 安保 勝順 (昭和44年卒)
- 伊藤 皓嗣 (昭和44年卒)
- 大原 哲弘 (昭和44年卒)
- 小岩 真知子 (昭和44年卒)
- 谷村 誠 (昭和44年卒)
- 中村 紀久雄 (昭和44年卒)
- 中山 雅雄 (昭和44年卒)
- 西谷 弘 (昭和44年卒)
- 西谷 文子 (昭和44年卒)
- 沼崎 孝男 (昭和44年卒)
- 花田 憲一 (昭和44年卒)
- 森武 一幸 (昭和44年卒)
- 澤田 稔 (昭和45年卒)
- 村本 淳一 (昭和46年卒)
- 和田 裕 (昭和46年卒)

受賞おめでとうございます

よ  
ろ  
こ  
び  
の  
言  
葉

## 追想 校長時代余話

津坂 忠  
(昭和二十八年卒)

平成十九年秋の叙勲で、はからずも教育功勞により、瑞宝双光章を拝受致しましたところ、夕陽会本部の川島会長様、函館市支部の三島支部長様から、早速ご鄭重なご祝意を頂戴致しまして、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

十一月八日国立劇場にて勲記・勲章の伝達式、皇居においてご拝謁が行われましたが、足腰が悪く歩行不自由のため、残念ながら欠席致しました。

私は学芸大学函館分校を昭和二十八年に二十七歳で卒業し、桐花中学校二年間、亀田小学校に十年間勤務し、昭和四十年から指導主事として釧路で三年間、指導課長として胆振で二年間、貴重な行政経験をさせて頂き、昭和四十五年茂辺地小学校長に昇任致しました。その後、長万部小学校長、八雲小学校長、大野中学校長を拝命し、昭和六十一年三月大野中学校を最終勤務校として、教職歴三十三年間、内、校長職四校、十六年間の勤務を無事終え定年退職となりました。

校長の頃を振り返ってみますと、私は次の二つのことを念頭において学校経営に当たりました。

一つは、子どもの目線に沿った接し方を中心としたことです。「校長の授業は、全校集会でのお話だ」と考え、地域素材から創作童話を編み出し、野口

英世の少年時代をシリーズとしてお話ししたり、日常生活の話題や時事問題を随時取り上げたりして知恵を絞って話しました。

もう一つ、学校経営の大きな柱に「地域に根ざした教育」を掲げ、その為には先ずその地域を知ることが大事だと考えました。その一助として、私はその地域の「数え歌」作りを思い立ちました。

「いかに遠出の旅しても 故郷忘れぬ 鮭の群れ」「昔蝦夷との古戦場 偲ぶ 茂別の館の跡」「茂辺地小」「世にも稀なる二股の ラジウム温泉石灰華」「昔南部の陣屋跡 今は鎮守の飯生さん」「長万部小」「百有余年の八雲町 尾張の殿様拓いた地」「昔蝦夷地の関所跡 歴史に残るは山越内」「八雲小」「古い歴史の大野町 本道水田発祥地」「流れ豊かな灌漑水 朧月夜に鳴く蛙」(大野中)

以上、私が作詞した数え歌の一部ですが、地域に根ざした教育の推進に役立つと、今でも脳裏に残っています。昭和六十一年、函館を永住の地と定め昭和に居住してからは、支部の皆様には大変お世話になって参りました。

これまでご支援して下さった夕陽会函館市支部の皆様様に深甚なる感謝を申し上げ、御礼のことばと致します。

田中 俊也  
(昭和二十九年卒)

秋の叙勲で身に余る荣誉に浴し、感激深く感謝しております。これもひとえに皆様方の心のこもったご支援の賜と存じ、厚くお礼を申しあげます。

この事は、先輩・同僚・後輩など多くの方と共に、長い間実践活動に努めてきたことに送られたものと受け止めてきたことに送られたものと受けて止める心から感謝をいたしております。又、さつそく夕陽会の同窓の方々から心のこもった祝意をいただきありがとうございます。今後は、この荣誉に恥じないよう一層の精進をいたす所存ですので、よろしくお力添え下さいますようお願い申しあげます。

さらにこれからの夕陽会の一層のご発展をご期待申しあげ、新しい教育の研鑽に努めるとともに、特に生活に根付いた活動の実践化に積極的な展開をされますようご期待いたしております。昭和二十九年私は母校を卒業して、函館市内の中学校に勤務し、教員として研鑽を積み、教育実践の向上に努力してまいりました。

特に二校を経験した後半は新設校で優れた上司の学校経営のあり方について、意欲的な実践研究の推進に努力をして、教育的本質的課題に取り組み、その指導実践のあり方を学び、さらに経験を積み重ねることによって成長を自覚することができました。

## 秋の叙勲を受賞して

卒業して七年後、指導主事として高に転任し、従来の教職と異なった職務を学び、教育行政の一端を担い、その専門性の職務を取り扱う実務に努め、その後、道の教育委員会に転出、広く学校教育の全般的あり方について、その広がりを経験しました。さらに道議会の対応や市町村教委との関係など責任の所存によって異なっていることは当然といえましょう。その後、

宗谷地方の教育局や郷里である渡島教育局を経て胆振等に転出し、再び本庁の勤務や札幌養護学校の校長と、新設された特殊教育センター等障害児の教育研究に専念致しました。

お陰をもちまして、昨年十一月八日国立劇場におきまして勲記勲章の伝達を受け、さらに皇居に参内して祭祀の場であります豊明殿におきまして、天皇陛下に拜謁の荣誉とともに激励のお言葉を戴き感激いたしてまいりました。このことも多くの方々から変わらぬご援助とご指導によるものと感謝をいたしている次第であります。十分健康に留意して、新しい教育の課題に立ち向かってまいりたいと存じます。

今後とも、夕陽会のみましますのご発展をご祈念申しあげ、お礼のご挨拶といたします。

函館市立桔梗中学校



本校は昭和五十九年に創立開校した、市内で一番歴史の新しい学校です。近年宅地開発や大型店の出店、さらに近郊の町を結ぶバイパスの整備が進み、周辺の環境を大きく変えてきています。

そのような中学校で「元気に授業や部活動に取り組んでいる生徒三八三名」に日々、熱意をもって指導にあたってはいる十一名の会員を紹介いたします。

■会員紹介

手坂 世志雄(昭和四十六年卒)

十年ぶり、二度目の勤務。学校経営をトップギアに思いつつ、いつもバックをニュートラルにできただけ。今年こそはと思っている。平成五年中体連全道優勝全国一勝のサッカーは専門外。少林寺拳法函館亀田支部長二十年

日(少林サッカー?)スキー指導員会副会長(函館市立スキー学校のために資格を取ったのだが;)中学校国語研究会会長として学校教育のベースは国語だと力んでいる。

中村 吉 秀(昭和五十四年卒)

「子どもたちの学力は、様々な面で使っているうちに貯まってく」ととらえ、その実現のための改善を日々地道に図っています。特に、「感動、喜び、失望、信頼、公正、正義」を意図的・計画的に体験させることは大切なことと認識し、教頭として二年目を迎えた今年、全教職員と使命感を高めつつ、美術教育で得た知見を生かして活動的な子どもたちと共に学校づくりにあたっています。

斉藤 忠 輝(昭和五十八年卒)

今年度で赴任四年目になります。桔梗中の校舎は四階建てですが、この四階から見渡す函館の景色には、素晴らしいものがあり、特に夕暮れ時、そして夜景は一日の疲れを忘れさせてくれるものがあります。このような環境と、明るく元気な生徒に囲まれて、毎日楽しい学校生活を送っています。

加賀 亨(昭和六十年卒)

本校へ赴任して五年目となりました。理科を担当し、職員室にいない時は理科室にいます。生徒も教師も楽しい授業を目指しています。分掌は生徒指導を担当し、生徒と日々悪戦苦闘しています。放課後には野球部の顧問として汗を流し、夢を追いかけいています。趣味はスキーで、冬の週末は、部活とスキーで忙しくなります。

明石 美 樹(昭和六十一年卒)

本校赴任三年目です。二年生担任、数学担当です。中学校は体力勝負とい

うことで、体を鍛え、スリムでなければ動まらないと思いつつも、仕事にわれ、何もしないまま時間が流れてしまっています。(本校は先生方と生徒の雰囲気が良いので鍛えなくても大丈夫という説もあります)今年度も健康で明るく過ごせるように、先生方と響生(本校の校訓)しながら頑張ります。

日野 昌 史(昭和六十二年卒)

桔梗中学校に赴任して二年目になります。今年度で教員生活二十一年目になります。最初の赴任校が根室市の中学校でしたが、そんな遠い所でも、夕陽会の仲間がたくさんいて、研究会などに参加するたびに、何度も励まされたことを思い出します。今までの経験を生かして生徒指導や授業、学級経営など、頑張っていきたいと思っています。

二本柳 技(昭和六十三年卒)

桔梗中学で三年がたちました。現在は一年団の副担任、野球部の顧問をしています。念願の中体連全道大会出場を目標に日々の指導に力を入れていきます。新人戦では過去、優勝、準優勝と好成績を残していますが、肝心の中体連大会でここ数年はいま一つ低迷しています。過去のジンクスを破り、今年こそは中体連大会優勝を勝ち取りたいと思っています。

渡邊 信 之(平成五年卒)

本校赴任四年目となります。現在三年生を担任しており、生徒の受験に向けて担任自身がもがいている日々が続いています。部活動ではバレーボール部の顧問をやらせてもらっています。若い先生はすごいとしみじみ思うほど体力の無さを痛感しています。今は次世代のDVDの動向が気になり、どうなるんだと考えながら、眠れぬ夜

を過ごす毎日です。

戸田 修(平成九年卒)

今年度、長万部町立長万部中学校から赴任しました。六年ぶりに大好きな函館へ戻り、胸躍らせながら毎日を過ごしております。

桔梗中では、まだ慣れない所もありますが、二学年の担任と英語の授業を楽しく行っています。部活動は初めて野球部(副顧問)担当となり、わからない点も多々ありますが勉強の日々。全道大会へと勝ち進めるよう力になりたいです。

喜多 秀 幸(平成十三年卒)

昨年の三月までは北は北海道、その北の離島、利尻島で勤務しておりましたが、この度、新採用となり、赴任してきました。一年団に所属し、担当教科は英語です。部活は全くの経験なしではありますが、サッカー部の副顧問をしており、趣味はスノーボードなのですが、全然行けていません。人生、何事も勉強と、教科においても、部活においても日々、生徒と共に学び成長していききたいと思えます。どうぞ宜しくお願いします。

太田 竜 也(平成十八年卒)

昨年新採用となり、桔梗中学校の二年生の配属となりました。教科指導や生徒指導をはじめ、経験の無かったバスケットボール部の指導など初めてでわからないことだらけでしたが、多くの先生方に支えて頂きながら日々学び、生徒達と共に充実した一年間を過ごすことができました。

今年度は二年目で、また進路指導など昨年とは違った面も学びつつ、さらに成長していけるように頑張っています。

函館市立千代ヶ岱小学校



本校は、大正六年に開校し、平成十九年度に開校九十周年を迎えた伝統ある小学校です。校舎は、市の中心部に位置し、五稜郭の繁華街に隣接しています。

現校舎は、築四十年以上の古い校舎ですが、開校当時は時計塔などがあるモダンコンクリート建築物だったと聞いています。平成十五年度には、トイレ全ての改修工事が行われ、児童にはホテルのトイレのようだと好評です。児童数は、年々減少傾向にあり、平成二十年度一月現在で、百九十九人(六学級)です。校舎が古いため、冬は寒さが厳しいですが、学校の雰囲気は温かく、子供たちは明るく元気に生き生きと生活しています。

■会員紹介 藤川 潔(昭和四十五年卒)

「千代ヶ岱小に藤川校長あり。」常に子どもの目線で考え、子供たちと親しく触れ合う姿は、教師の鑑。誉

めて育てる力に長け、子どもや女性に優しい。常に穏やかで懐が深く、保護者からの信頼も厚い。麦わら帽子がよく似合う。

橋本 美恵子(昭和五十一年卒) いつも優しいお母さんのような先生。子供たちを温かく包み込むような指導のうまさには、感服。豊かな経験からアイデアが溢れ出る。しっかりと、健康には独特のこだわりがある。

斉藤 八寿子(昭和五十四年卒) 函館の音楽教育のスペシャリスト。本校の音楽力を高めた至宝。子供たちの歌声を聞くたびに、指導力のすばらしさに敬服。芸術面のセンスが超一流で、セレブの雰囲気漂わす。

堀川 美名子(昭和五十四年卒) 語彙が豊富な国語教育ピカ一の先生。地に足がついた実践と的確な指導は、先生方のお手本。ユーモアを交えた話術で、子供たちを職員をも虜にする。聞き上手で安心感・希望を与えてくれる。

佐々木 寿也(昭和五十七年卒) 頼りになるスーパーマン「ヘルプ」の言葉に即反応。パソコンも難問も次々と解決。本校職員の中核となり、職員にも子供にも積極的に関わってくれる熱血先生。マニアックな一面もある。

鈴木 喜代志(昭和五十九年卒) 本校研究をリードする親分。いつも冷静で綿密な計画をもとに、能率よく仕事を進める。身の回りの整理整頓は抜群。白衣がトレードマーク。野球の審判・投手としての実力もある。

柳田 美佳子(昭和六十一年卒) 来たる英語指導はお任せあれ。いつも論理的に物事を考え、スピーディーな実践・仕事ぶり。海外旅行を重ね、国際理解教育に貢献。才ある女性は、食にも詳しく、校内一のグルメでもある。

函館市立磨光小学校



本校は、明治十三年に尾札部小学校として創立されました。幾度かの分設・合併を経て、明治二十年に校舎を新築し「磨光小学校」と改称。その後、児童数の増加に伴い増改築を重ね、昭和三十九年には、当時としては管内でも有数の近代的校舎としてその偉容を見せました。

しかし、この校舎も長年の風雪で老朽化した為、平成九年「ふるさと文化公園」内の現在地にオープンスペースなど、ユニークな施設・設備を備えた新校舎を新設。次いで同十年、旧校舎跡地に新グラウンドを造成しました。

児童数は百四十六名。明るく素直で礼儀正しく、活動的な子どもが多くみられます。また、ボランティア活動や下級生の面倒をよくみるなど心の面でも好ましい雰囲気があります。現在、研究主題「自ら学ぶ子を育てる」(伝え合う力の育成)の下、国語科を窓口とした授業交流をはじめ、作文や音楽活動等を通して、表現力を育て、人前でも積極的に話せる子どもの育成に取り組んでいます。

保護者や地域の方の教育への感心も高く、学校に対しても大変に協力的であり、PTA活動も積極的です。また、

社会教育分野のスポーツ少年団活動(磨光クラブ)が盛んで、野球・ミニバスケットボール・サッカーの三種目があり、対外的にも好成績を残しています。平日の放課後や休日には、教師と保護者が一緒になって、磨光クラブ保護者会を中心に平日の放課後や休日、活動しています。

■会員紹介

加藤 正 男(昭和五十一年卒) 今年度より本校に赴任。温かい雰囲気と眼差しから、子どもたちに慕われています。教育目標「自ら磨きつづける磨光の子」を達成するための方針を説き、情熱をもって職員とも接します。

品田 晃 宏(昭和五十一年卒) 教頭として三年間、磨光に在職。その明るいキャラと風貌で、子どもたちからも大人気。いざという時冷静沈着、頼れる存在です。

岩井 啓 子(昭和六十二年卒) 磨光のモーターソール。歌はもちろんのこと、ピアノも抜群。子どもと共に、子どものためにと毎日指導されています。そのおかげで、子どもたちも元一杯に過ごしています。

横山 慶 子(平成五年卒) 元日本バレーボール代表「菅山かおる姫」にそっくり。雰囲気だけでなく、運動神経も抜群。磨光のアイドルとして子どもたちにも大人気です。

村上 尚(平成九年卒) 稲垣吾郎似の風貌で子どものハートを射抜きます。教室からは子どもたちの笑顔と元気な声が響いています。スポーツ万能でどんな種目もお手のもの!

中村 円(平成十一年卒) 磨光に赴任して二年、全校合唱担当となり、悪戦苦闘の毎日です。楽しく実のある全校合唱の時間をもつために、今日も明日もがんばります。



教育に携われたことに感謝して

札内 征男 (昭和三十七年生)

この度、中学校教育六十年を記念して、文部科学省教育功労者表彰が行われ、はからずもその栄に浴することができました。全国の功労者表彰受賞者は、国立、公立、私立を含めてであり、浅学非才の身にとってまさに望外の喜びであります。これもひとえに多くの皆様のご支援のためものと厚く感謝申し上げます。

平成十九年十月二十五日・二十六日の両日、中学校教育六十年記念第五十八回全国中学校長会東京大会が、東京国際フォーラムで開催されましたが、その初日に記念式典が挙行されました。皇太子殿下のご臨席のもと、衆参両院議長等のご祝辞をいただき、文部科学大臣より表彰状が伝達されました。その席上、全日本中学校長会長より、感謝状も贈呈され、重ねて喜びにたえません。

昭和二十二年、戦後の混乱期の中で新制中学が発足して、六十年が経ちました。その間、児童生徒として、あるいは、教員として生き抜いたわけであり、教職も終わりに近くなつて、平成十一年十月、全日本中学校長会北海道大会が、「生きる力をはぐくむ中学校教育」等を研究協議題として、釧路市で開催されました。道中副会長、全日中理事として、その運営に携われたことが懐かしく思い出されます。昨今、学校教育の大きな転換期を迎えておりますが、全日中役員OB会員として、その動向にまだ熱い視線を注いでおります。

私は、三十八年間に、一貫して中学校に勤務しました。いわば中学校教育一筋で、幸いにも今般の受賞の由縁であります。管理職になるまで、柔道部の顧問を務めました。だいぶ年が経つてからも、教え子からは、「まだ柔道やつてますか」とよく聞かれたものです。生徒や地域父母、先輩や同僚の皆様へ恵まれ、お陰様で、函館市立亀田中学校を最後に、大過なく教職を全うすることができました。

「誠心誠意」こそ、親から授かった貴重な財産であり、生涯かわらない生活の信条であります。「教育は愛である」という教育理念のもとに、真に人間愛に基づく経営・実践を推進し、個性ある心豊かな生徒の育成を目指しました。指導に当たっては、優しさを基底にして厳しさと兼ね合いを重視しました。問題があると、子供の気持ちになつたり親の立場に立つたりして、物事を考えることにしました。今思うと、なにやら無我夢中であつたような気がします。

その外、現職中、やりがいのある仕事を色々させていただきました。函館市中学校英語教育研究会会長、夕陽会本部情宣部長、函館市P連事務局長等を勤めさせていただきました。大変になりました。退任後、函館市P連OB会に入らせていただき、現在、幹事長を仰せつかっております。少しでも子供の教育に関係していることを誇りに思い、生き甲斐を感じております。



巡り合わせに感謝して

武田 隆雄 (昭和四十六年生)

このたびの北海道教育功績者表彰の受賞にあたりましては、たくさんの方からお祝いのご言葉を頂戴し、大変恐縮いたしました。

私が教職にかかわつた三十七年間は、子どもたちはもとより、職場や研究団体、校長会等を通して多くの方々との出会いがありました。そこには指導力に優れた先輩、人間的魅力に溢れた同輩、努力を惜しまず実践を続ける後輩などさまざまな方がおり、多くのご教示やご支援をいただき、ありがとうございました。たまたまこの受賞の栄に浴したのも、このような方々と一緒にいるという「巡り合わせ」があつてこそであり、これを与えてくださった神様に感謝しているところです。

私の教職人生は、昭和四十六年、石狩管内の僻地四級、重複式の学校に赴任したことに始まります。不慣れた生活ではありましたが、子どもたちや保護者、地域の方々との交流を深め、楽しい日々を過ごすことができました。翌年廃校となつたこの学校には今の教育や学校が失つた大切なものがあつたように思います。特に、子どもや保護者と琴線にふれるかわりができ、互いの信頼感に基づいた教育実践ができたと思つています。

その後、恵庭市と戸井町の学校を経て函館市に勤務することになります。市内二校に勤務した十年間は、社会科学教育研究会に所属し、授業研究の何たるかを恐ろしい先輩からご指導いただき

きました。全道大会での授業公開も、ついこの間のように思い出されず。また、教育センターの研究員としてもいろいろなることを勉強させていただきました。この時代に学んだことは、単に経験や勘だけに頼ることなく、基礎理論や指導法をしっかり身に付けることの大切さでした。

そして、平成三年には網走教育局に赴任することになります。教育局での勤務は早朝から深夜に及ぶこともありましたが、指導主事の仕事を意気に感じながら、学校訪問や事業の企画運営等の任務に当たりました。五つの教育局に勤務している間、学校を外から眺めることができたため、ちよつぱり視野が広がつたと思つています。

さらに、平成十四年、久しぶりに学校に戻り、学校経営に携わることができました。東小と駒場小では、教頭先生はじめ教職員の皆さんに支えていただき、お陰様でなんとか職を全うすることができそうです。校長会の仲間も存在も、実に頼もしく、学校経営の指針を学ばせていただきました。

このように多くの方々のお世話になりながら今日を迎えたことを改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいでありたいです。

今後は、函館市の教育の充実のため、夕陽会の発展のためにお役に立てるよう微力を尽くしたいと考えております。



社会人として生きる上でも、自分らしく生きる上でも

小岩 眞智子 (昭和四十四年生)

このたび、函館市立学校教職員表彰の栄誉を得ました。多くの皆様のお力添えやご厚情があったればこそと、心よりお礼と感謝を申し上げます。

三十八年間の歩みをふり返ってみると、外では教員、内では子育てと、ヨタヨタ・ヨレヨレ・クタクタの日々がやはり一番先に心に浮かんでまいります。「疲れた！もう限界。ゆっくり眠りたいから仕事を辞めようかな。」と呟く私に、「あら、そんなことを言っていたら、うちのおばあちゃんに叱られるよ。」と、笑顔でぴしゃりと返ってきたくださった絹野秀子先生、夕陽会の先輩です。

「人生八十年。人の世話になる四十年、人を世話する四十年。生まれてから二十歳までは親の世話に、六十歳過ぎたら年金や介護と、人の世話になるのだから、人のために働けるうちは精魂込めて一生懸命働かなければならなくて、いつもおばあちゃんが言っているの！」とのこと。

「無事にひと山越えた」という安堵感が心一杯に満ちました。

さて、「残り人生二十年」をどう生きようかと考えた時、思いついたのは「もう一度、二十歳の地点に戻ってみよう」ということです。「人・もの・金」を組み合わせ、学校経営に携わってきたこともあり、「大学院生一人を育てるために税金をどのくらい使っているのか？」などの真つ当な疑問も心よぎりました。しかし、還暦まで生き抜いてきた神経は恐ろしいほど逞しく、そのずうずうしさの延長で、再び母校で「学校臨床心理」を学んでいます。年若い学友に囲まれて、いい気になつていたのも束の間のこと。宿題・レポート・実習等に追いまくられ、分

からないのにやるしかない苦しさ、今、十分に味わっています。でも、主任教授が、故松本征八先生の親友だったという後藤守先生、夕陽会の先輩です。私の頭が煮詰まってくると、昭和四十年代の函館校の話をなさりと、若かりしころの元氣やエネルギーを引き出してくださいます。

社会人として生きる上でも、自分らしく豊かに生きる上でも、「夕陽会」の絆は頼もしい限りです。ある時は目標や方向を示し、ある時はエールを送り続ける源として、ともに時代を拓いてきた先輩、友達、仲間たちの集う「夕陽会」に感謝し、発展を心より願っています。



幸運に感謝して

和田 裕 (昭和四十六年生)

この度は函館市立学校教職員表彰の栄に浴し誠に感激の極みであります。昭和四十六年教職の道に就き大過なく退職の日を迎えることができましたのも、ひとえに夕陽会同窓の皆様、先輩をはじめ同僚諸兄、地域保護者の皆様のご指導、ご援助のお陰であり、心からお礼を申し上げますとともに、このたびの受賞に際しまして夕陽会函館支部より祝意をいただきましたことに重ねて感謝とお礼を申し上げます。

過ぎし日を振り返るほど、まだ心のゆとりがありませんが、若い頃現在の教育改革の緒とされている臨時教育審議会答申が示されたことを思い出し、私どもの教員生活は戦後教育の見直しを出発点とした改革期そのものであった気がします。そうした不変と新風を二つながらに求める改革期を象徴するかのよう、ひと頃芭蕉の言葉になぞらえて「不易と流行」という言葉をよく耳にしました。時代が変わっても変わらないものと、時代とともに変えて行かなければならないもの、その両方の吟味が日々の実践の中で強く求められた時代であったように思います。むしろ初任の頃はそうした時代認識を持てるわけもなく、三十有余年の間いろいろな方との出会いを介して得た沢山の幸運がそのことに気づかせてくれたのだと思います。

あえて私にとつての二つの大きな幸運を申し上げますと、一つの幸運は、F小学校での経験です。そこでは教職に身

を置く者がどうしても身につけなければならぬ教育研究の理論と実践を学ばせていただきました。時には深夜に及ぶ先輩の懇切で緻密な指導をいただいたことは大変有り難いものでした。日々指導を受けながら教育の中の「不易」の部分を選んでいった気がするので、生涯学び続ける人間の育成という学校教育の本質的な役割についての研究実践の取り組みもその一つでした。もう一つの幸運は、教育行政での仕事を経験したこと。これはまさしく教育改革の真つ直中の仕事でした。それまであたかも「不易」と思い込んでいたことを、時代の流れを汲み取りながら変えていかなければならぬ作業にはいろいろな困難が伴うことを学びました。同時に改革の時代に立ち会っていることに何かしら爽快感を覚えることもありました。人事考課の考え方や学校評議員制度などを活用した学校評価などもこのころに発想されたものでした。

こうして多くの方々からたくさんのご指導、ご支援をいただく幸運に恵まれました。とりわけ夕陽会の皆様方の温かなご指導、ご厚情に絶りながらの教職生活であったことを思い、改めてお礼と感謝を申し上げます。そして、今後共にご指導をお願い申し上げます。

# 学校・職場紹介

## 函館市立八幡小学校



本校は函館市の中心に位置し、在籍数五二九名を数える市内有数のマンモス校です。大規模校でありながら、子供たちは非常に落ち着いた学校生活を送っています。教育活動にかける愛情と情熱あふれる会員十九名をご紹介します。

### ■会員紹介

**野呂 克 巳** (昭和四十六年卒)

合い言葉は「良い風吹こう」。毎朝児童玄関前に立ち、子どもたちに挨拶運動をしています。そば打ちを趣味とし、そのホームページも更新中。年に数回職員にそばを振る舞う事を楽しん

でいます。

**佐々木 宏 二** (昭和五十六年卒)

今年度着任したダンディなお方。物腰柔らかく、職員朝会の司会でもダンディさは忘れない。パソコンが得意で、学校のPC環境を整えた功労者。他にもバレーや音楽や英語も得意なスーパー教師。

**仙石 光 子** (昭和四十七年卒)

子供たちへのあたりは優しく、締める時はきっちり締める。一年生の担任として気配り細やかな人。服装もいつも素敵でおしゃれ、越路吹雪を連想させる。八幡小学校のファッションリーダー。

**小井田 成 美** (昭和五十三年卒)

職員室でも教室でも豪快を体現する、肝っ玉母さんここにあり。やんちゃな二年生を従えてクラスをまとめます。裁縫が得意で、職員室では若い先生方に小物の作り方を教えてくれる貴重な存在。

**加藤 久 司** (昭和五十八年卒)

給食を残さない事に野望を持つ男。クラスが丸となっておかわりをして残らないようにしている。職員室では「食べ過ぎた。」と言うのが日課。いつも元気で、笑顔で、パワーあふれる先生。

**吉岡 晶 子** (昭和五十八年卒)

明るく元気で笑顔が絶えない、三年生の牽引者。美しい声とぱっちりした瞳で、やんちゃな三年生の子供たちを熱心に指導しています。独特なキャラは誰も真似出来ない。吉岡ワールドを構築します。

**澤田 真 次** (昭和六十三年卒)

一見物静か。実は、内面に熱き魂を秘める人。怒鳴ることなく、とくとくと児童に指導します。飲めば「語る」、そのスタイルは変わりません。頼りになる、八幡小学校のアニキ的存在です。

**阿部 保 子** (平成元年卒)

落ち着いた雰囲気、教室でも職員室でも穏やかな癒し系。温厚な人柄が、みんなに好かれている。趣味が多彩でスキーにゴルフにスキューバダイビング！バドミントンのスマッシュはお見事。

**澤田 秀 樹** (平成三年卒)

一見強面で、やっぱり厳しい見た目通りの人。生徒指導をバリバリこなします。英語が堪能で、これからの小学校英語で大活躍する予定。小学生の娘さんのよきパパで、パソコンの壁紙は愛娘の笑顔。

**高瀬 理 砂** (平成三年卒)

優しさを絵に描いたような人。明るく和やかなクラス作りはお手のもの。六年生にとってお姉さんの存在。職員室の机にかわいいカエルちゃんグッズがあふれるほどのカエラー(大のカエル好き)

**林原 学** (平成三年卒)

八幡小学校のホームページの管理人。昨年発売されたばかりのWINDOUS VISTAなど難なく使いこなすし、本校情報教育のボスの存在。机の上には数学やパソコンの専門書が置かれるマニアックぶり。

**目黒 史 代** (平成三年卒)

明るく元気ではつらつとした人。担当した学級は「明るく元気」になります。現在育休中ですが、用事で学校へ来ると、お祭りが来たかのような賑やかさ。お帰りになるとしーんとなります。

**柿崎 浩 孝** (平成四年卒)

小柄ながらも六年生を引っ張る底力の持ち主。美術専門で、学芸会の大きなバック絵も一人で難なくこなす。冗談へののりのよきは職員室一。家庭では、「おしながき」を書くほどの創作料理家。料理家。

**細川 真 喜** (平成五年卒)

元気で明るくはつらつとしているが

キレると怖い。普段は、「うんうん」と共感的に話を聞いてくれる優しいお姉さん先生。本校の研究を支える研究部のボス、いざ説明にはいると機関銃状態となる。

**吉田 大 介** (平成十一年卒)

今年度新採用として本校に赴任。がっちりした大きな体に男らしい風貌。誰もが運動ばかりの体育会系だと思いきや、実は家庭科専門。昨年娘さんが生まれ、以来ずっと鼻の下が伸びっぱなし。

**笹森 恵美子** (平成十一年卒)

育休中。優しい笑顔の中に厳しさを秘めるパワーあふれる先生。子どもたちと一緒に元気よく活動する姿は、まるでモデルのよう。家庭では二児の母、学校ではクラス全員のお姉さんの存在である。

**高橋 つぐみ** (平成十二年卒)

小さいながらも、理科専科として大きな高学年児童に授業をするプロ。独学のピアノで合唱指導もお手のもの。何でもこなす熱血多彩人。退勤が遅く、学校に住むお化けの皆さんとは大の仲良し。

**小野木 真希子** (平成十四年卒)

昨年度六年生を卒業させ、今年度は一年の担任とフレキシブルな人。整理整頓が得意で、学校の備品を取りやすく工夫するなど、家庭科の先生としての力量を授業以外でも十分に発揮している。

**桃井 雅 樹** (平成十四年卒)

厳しさを心に秘め、肃々と授業を進める。穏やかな授業に、子供たちも静かに取り組みます。パソコンも得意。この度めでたく教員採用試験を突破し、春から正式な教師としてスタートする予定。

飛躍を

日々の中で見えるもの



函館市立亀田小学校  
佐野綾都  
(平成十九年卒)

十五年前に目標とした『教師になる』という夢が叶い、早くも一年がたとうとしています。この一年、初めての事だらけに戸惑ったり悩みながらも、子どもの笑顔に元気をもらい楽しい毎日を過ごしてきました。

また、同じ職場の先生方、ボランティアや教育実習でお世話になった先生方のご指導のもと、たくさんの経験をさせていただくことができました。現在、特別支援学級五、六年生の副担任として、三名の子どもを受け持っています。

日々の指導の中で必ず『どうしたらよいか?』『なぜだろう?』と考える事があります。この指導は子どもの実態とニーズに合っているのだろうか?と悩む事もあります。ですが、悩んだ時に解決の糸口を与えてくれるのも子どもです。目の前にいる子どもと向きあい、子どもの目線に立って考える事で、今子どもにとって必要な指導・支援を行うことができました。

子どもから学ぶ事はとても多く、自分の知識のなさや、未熟さを感じますが、それとともに教師としての責任感や、やりがいを感じています。

私のクラスで卒業を間近にした児童が、ある特別支援学校への進学を決めました。その子どもは貼ってある年間カレンダーに『三月亀田小学校校終わり。四月中学校始まり』と書かれているのを見て、私に「悲しい」と、ポツリと言いました。

子どもにとって学校生活は一日の大半を過ごし、学び、遊ぶ大切な成長の場です。その子にとっての学校生活をともに創っていきけるこの仕事に喜びと誇りを持ち、これからも子どもとともに歩んでいきたいです。

決意を新たに



函館市立中央小学校  
上埜由佳  
(平成十九年卒)

昨春、大学を卒業し、右も左もわからないまま教員としてのスタートをきりました。現在は、ことばの教室の担当と特別支援学級の指導という大変貴重な経験をさせていただいています。ことばの教室では、集団の中の一人としてではなく、個別に一人の子と関わる指導を通して多くのことを学ばせていただいています。『個別で指導したことが集団に戻ったときに生かされるように支援していきたい』という思いで試行錯誤を続ける日々です。

赴任して初めの頃は、わからないことばかりで何を質問したら良いかもわからないといった状態でした。

しかし、先輩の先生方や初任者指導教官から親切なご指導をいただき、初任者研修で出会った仲間にも励まされ、一年間があつという間に過ぎていきました。初めて経験する多くのことに戸惑うこともありますが、毎日笑顔をくれる子どもたち、そしてそんな子どもたちの少しづつではありますが成長している姿に、この仕事を選んで良かったと心から思っています。

今年度は初任者研修など様々な研修を受けさせていただき、研修内容から自分に置き換えて考え、自分自身を見つめ直すきっかけとなりました。

新採用となり、一年が経とうとする今、謙虚な姿勢で学び続けること、子どもたち一人ひとりの視点に立つて指導することの大切さを改めて心に刻み、これからの教員生活を歩んでいきたいと思っています。

過ごした日々を明日への糧に



函館市立桔梗中学校  
喜多秀幸  
(平成十三年卒)

産休代替教員として勤務していた利尻島から、母校、北海道教育大学函館校のある函館に四月から勤務しまして、約十ヶ月。ここ桔梗中学校では、一年団に所属し、日々、諸先輩方に助けられながら、生徒と共に学んでいます。

これまで、中学校「から」進学する高校、そして、中学校「へ」進学する小学校での教員としての経験はあるものの、中学校での経験はありませんでした。ですから、生徒との距離感を含め、手探りの状態でのスタートとなりました。教科指導については、生徒に「わかる」楽しさを少しでも味わってもらおうと日々、精進しています。また、部活動については、教科とは異なり、専門ではないため、生徒と一緒に汗を流し、また泥だらけになって、練習に励んでいます。

学級については、四月当初、副担任ということ、学年通信を発行したり、担任業務のサポートをしたりしておりましたが、六月からは、人事異動の関係もあり、学級担任を持たせていただくことになりました。担任交代に関わっては、こと生徒との関係について、難しさを感じています。副担任の立場と担任との立場とは、やはり違いがあり、生徒も私も戸惑いがあります。色々、試行錯誤しながらの学級経営が続いています。

しかし、他に変えられない程の喜びがあるのも、また確かです。学級が一丸となり、共通の目的に向かって力を合わせる姿は、感動以外の何者でもありません。

平成十九年度も残りわずか、これまで過ごした日々を明日への糧としてまた、頑張っていこうと思っています。

### 地域の学校として



函館市立石崎小学校  
筑土清彦  
(昭和五十四年卒)

石崎小学校は、「学制」が發布されて間もない今から百二十九年、明治十三年に開校した歴史と伝統に支えられた学校です。地域住民や在籍する保護者のほとんどが卒業生であることから、学校に対する愛着や思いがあり、運動会・学習発表会などの学校行事には、たくさんの方たちが来校し、子どもたちに大きな声援や拍手を送ってくれます。また、地域の祭典や行事に参列・出席した時には、町会役員の方々から「困ったことがあったら、すぐ教えて」のことばをいつもかけていただき、嬉しく、そして心強く感じます。このように地域からの心温まる応援を見たり、申し出がある度に、学校に寄せる期待の高さと併せて、本校の子どもたちが「地域の宝」であるということを実感します。

本校は、広い校地、小規模校の特性を生かし、全校縦割り班を編制して栽培活動をしており、今年度は農業に携わっている「地域の先生」をお呼びして「植え方」や「育て方」などについて学び、サツマイモのほかスイカ、カボチャ、メロンなどを育てました。日常の除草や水やりなどの活動を通して、高学年は責任と役割を自覚し、低学年は学び取る力を身につけています。このような教え・教えられる活動により豊かな人間関係が築かれ、本校重点教育目標「すすんで・つづけて・げんきよく」の具現にも結びついております。

二年後の完全複式に向けて課題は山積ですが、夕陽開学の精神「土地墾闢・人民蕃殖」を心に刻み、保護者・地域の方々の協力をいただきながら一層努力する所存です。今後とも諸先輩・同窓の皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

### 空を見上げながら



函館市南北海道教育センター  
小濱 誠  
(平成二年卒)

小雪の舞う中を函館空港に着陸しようとするジェット機の音が聞こえてきます。

気になって仕方なかった飛行機のエンジン音が、心地良いBGMのように感じられるようになってから、もうどれくらい経ったでしょうか。

昨春、私は十六年間の教員生活に一旦終止符を打ち、函館市教育委員会の末席を汚させていただくことになりました。

早いもので、間もなく一年。振り返ってみると、自分の至らなさを痛感するとともに、諸先輩方の業績の偉大さに押しつぶされそうな思いになることもしばしばでした。

しかし、一方で心強さを感じる一年でもありました。

学校教育というものがどれだけたくさんの方々に支えられた上で成り立っているものなのか、この年齢にして初めてわかり深い感謝の念を抱くことができました。

また、夕陽の諸先輩方より暖かい励ましの言葉をいただくことも多く、そのたびに心を強く持つことができました。

間もなく教育センターで迎える二度目の春。

これまで以上に資質と能力を磨き、教育行政という立場から函館の子供たちのために尽力していきたい。春空に飛び立つ飛行機を見ながら、決意を新たにしています。

そして、教育センターをご利用される皆様にとつて、より価値のある、なくてはならないものに飛行機の帰っていく空港のように―するべく微力ながら精進していく所存でございます。

今後ともご指導の程をよろしくお願い致します。

### 新たな課題を胸に



函館市立八幡小学校  
吉田 大介  
(平成十一年卒)

教師になるという夢が叶い、四月一日に八幡小学校に赴任し新たなスタートを切ってから一年が経とうとしています。臨時採用として勤めた経験を生かしてと思い、張り切って臨んだ一年ですが、様々な困難にぶつかり、教師としての資質や能力をより一層高めなくてはならないと感じた一年でもありました。

学習指導に関しては、わかりやすい授業を目指して授業の流れを考えたり、ワークシートや掲示物を工夫したつもりでしたが、いまひとつ理解が深まっていないと感じることがありました。その原因は、子どもたちの興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める働きかけが足りないことにあると思います。楽しい授業は意欲を高め、理解へと繋がります。今は子供が楽しく参加できる授業をテーマに、知識を増やすことはもちろん、色々な技を身に付け、「授業で勝負できる教師」になれるよう努めていきたいと考えています。

生徒指導の面では、子どもの心に響く指導が本来にできたかどうかを考えると疑問が残ります。ただ叱るだけであったり、一方的に「これは良い、悪い」という指導になってしまったような気がします。これからは子どもの様々な背景を理解しながら一緒に考えて考える姿勢を大事にしていきたいと思えます。

最後に今年一年間の初任者研修を通してたくさんの先生方に御指導をいただき、教育のあり方について考えを深める貴重な機会となりました。課題の多い一年ではありましたが、それらを糧としてこれからの教員生活の中で一つずつクリアしていけたらと思っております。これからも御指導をよろしくお願い致します。

新  
た  
な  
る